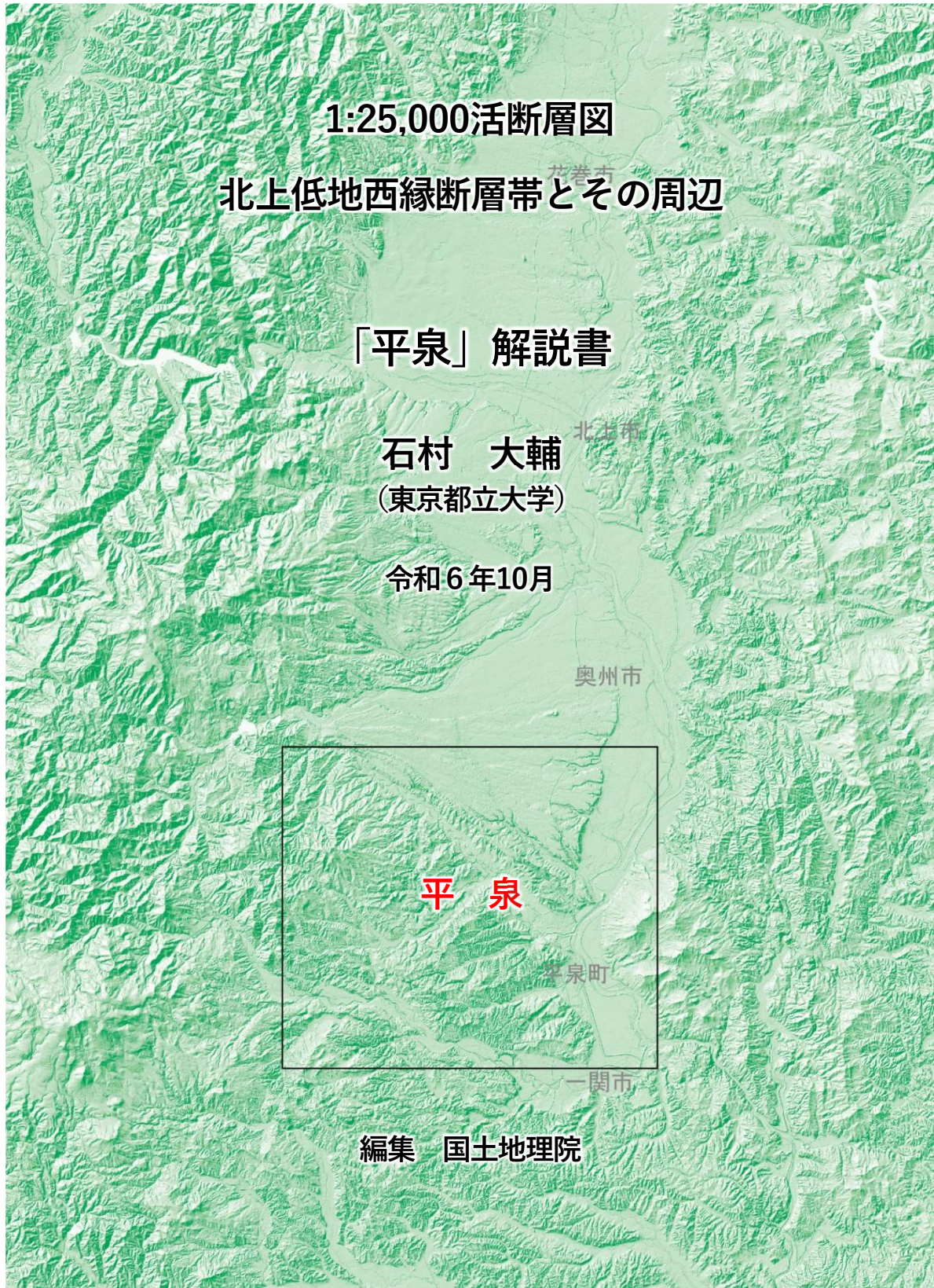
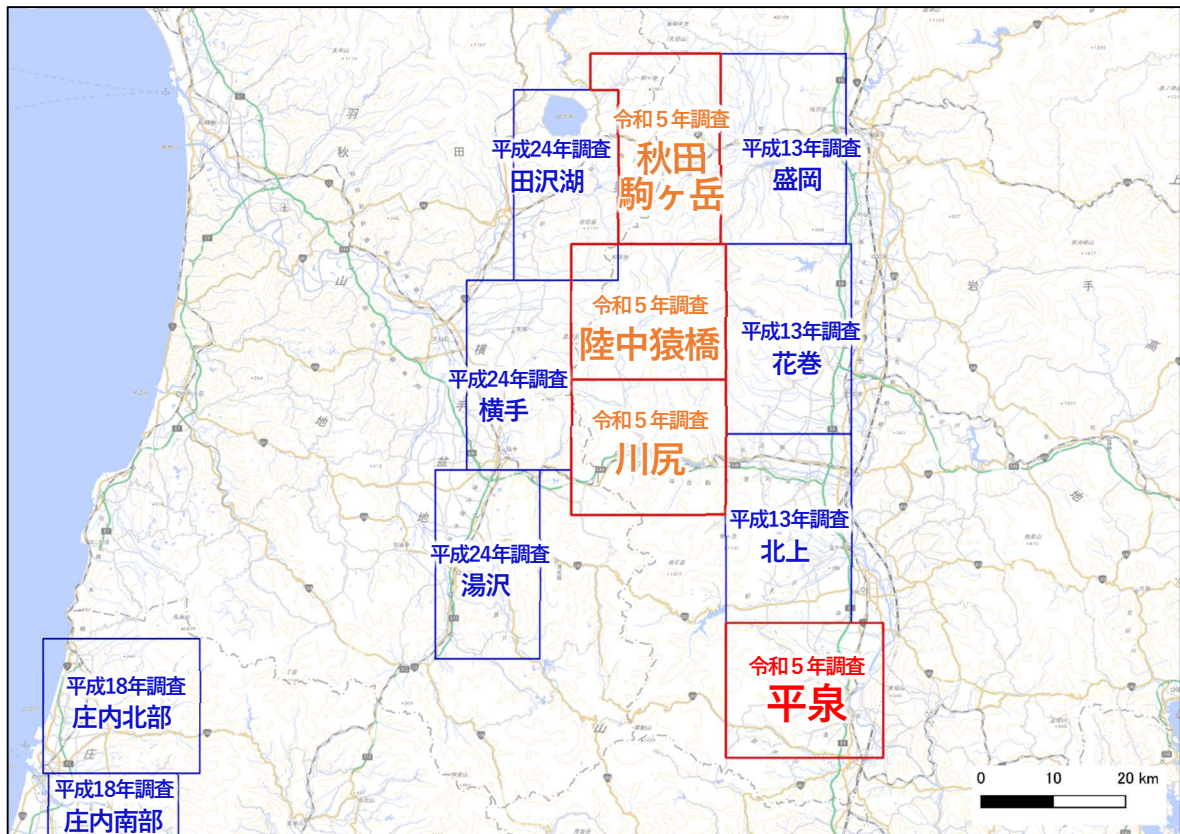




目 次

1:25,000活断層図 ^{きたかみていちせいえん}北上低地西縁断層帯とその周辺「平 泉」 ^{ひらいずみ}解説書

1. ^{でだな} 出店断層	2
2. ^{やまのめ} 山ノ目断層	3
3. ^{はのきだち} 栞木立断層	4
4. ^{ころもがわもちころばし} 奥州市衣川 餅 転 付近の断層	4
引用文献	5
使用空中写真, 使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等	6
付図 (断層索引図)	8



令和 5 年調査図郭
 令和 4 年以前の調査図郭

1:25,000活断層図「平泉」作成位置図

北上低地西縁断層帯は、奥羽山地とその東側の北上低地帯との境界付近に位置する活断層帯である。岩手県の^{しわ}紫波郡^{やはば}矢巾町西方から胆沢郡胆沢町南部（現奥州市）にかけてほぼ南北に延びている。全体として長さは62 kmで、西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層である。横ずれ成分は認められない。本断層帯は複数の断層から構成されており、これらは一部で並走して分布することもある（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2001）。

本図には、北上低地西縁断層帯を構成する^{でだな}出店断層のほか、^{やまのめ}山ノ目断層、^{はのきだち}爪木立断層及びその他の推定活断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. ^{でだな}出店断層

- ・走向 : 北北西－南南東
- ・長さ : 約4 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ、活撓曲）

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

出店断層は、1:25,000 都市圏活断層図「北上」（今泉ほか，2002）（以下「北上」という）図面内、奥州市出店付近から、同市駒籠付近まで北北西－南南東方向に延びる活断層である。

本図では奥州市南^{みなみだい}台以南の長さ約4 kmの区間が記載されており、縦ずれの変位、活撓曲を伴う。

（2）判断根拠

上位段丘面上に南北に連なる撓曲地形が、「北上」図面から連続することから、活断層と認定した。本図面内では、「北上」図面から連続する活断層が東側へステップし、約4 km南へ延びる。

（3）「北上」図面との接合部について

「北上」図面との接合部では、「北上」図面内の出店断層から約0.6 km東にステップする、長さ約0.1 kmの撓曲を伴う活断層が示されている。この活断層は、本図内の奥州市北^{きたあかざき}赤堰から同市駒籠までの活断層に連続するものとして図示されていたと考えられる。当該範囲について本図作成の際に改めて検討した結果、「北上」図面から北赤堰に連続する断層変位地形は認められなかったが、出店断層から本図内の奥州市南台にて東にステップし、北赤堰へ続く撓曲地形が認められたため、本図では「北上」図面から北

赤堰付近に連続する活断層は認定せず、南台付近から北赤堰付近で南に屈曲し、駒籠付近まで延びる断層を認定した。

2. 山ノ目断層^{やまのめ}

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約 7 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ、一部活撓曲を含む）、推定活断層

(1) 概要

山ノ目断層は、本図では平泉町^{はなだて}花立付近から図面南端に位置する一関市^{みやまえちやう}宮前町を通り、図面外へほぼ南北方向に延びる長さ約 7 km の活断層である。縦ずれの変位を主体とし、一部に活撓曲を伴う。

本断層の北部では、主断層の東側に並行して延びる推定活断層が見られる。

(2) 判断根拠

本断層の判断根拠は次の通りである。

2a：平泉町鈴沢では、下位段丘面上に東落ちの変位地形が確認される。位置は不明瞭ではあるが、数値標高モデル（以下、「DEM」という）を用いた判読により傾斜変換点^{ひかり}が確認されることから、その位置に活断層を認定した。

2b：平泉町佐野では、下位段丘面東端が撓曲変形し、沖積低地との間に比高数 m の崖が存在することから、その位置に活断層を認定した。

2c：一関市^{やまのめまち}山目町では、谷出口の扇状地性^{せんじょうちせい}の下位段丘面上に東落ちの崖地形が認められることから、その位置に活断層を認定した。

2d：一関市山目町から宮前町に至る区間は、下位段丘面上や扇状地^{せんじょうち}地面上に東落ちの変位地形が確認される。活断層の位置は不明瞭ではあるが、DEM を用いた判読により傾斜変換点^{ひかり}が確認され、南北へ連続することから、その位置に活断層を認定した。

2a～2b 付近の推定活断層：2b の活断層と同様に東側の沖積低地との間に比高数 m の崖が存在する。ただし、ここでは北上川による侵食が認められることと、それにより崖先端の撓曲変形の有無が確認できないため、推定活断層とした。

3. 杮木立断層^{はのきだち}

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ），地震断層

（１）概要

杮木立断層は、一関市岡山付近から同市落合^{おちあい}付近まで、北北東－南南西方向に延びる、縦ずれの変位を主体とした長さ約 3 km の活断層である。本断層は、平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の際に活動した断層であり（鈴木ほか，2008；国土地理院，2009；堤ほか，2010），既存の報告ではこれまで名称が付されていなかったため、付近の地名から杮木立断層と命名した。

（２）判断根拠

本断層の判断根拠は次の通りである。

3a：一関市岡山では、下位段丘面上に比高数 m の東落ちの崖が存在し、磐井川^{いわいがわ}の侵食崖とは異なり南北走向である。したがって、この位置に活断層を認定した。この位置には、平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の際にも地表地震断層が出現している。

3b：一関市杮木立では、下位段丘面上に西落ちの崖が確認され、それらは周辺の河川による侵食では説明ができないことから活断層を認定した。この位置には、平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の際にも地表地震断層が出現している。また、この断層は 3a, c とは異なり西落ちを示すものの、鈴木ほか（2008）では、東傾斜のバックスラスト（主となる断層と逆向きに傾斜する断層）と解釈されている。そのため、この地点の主となる断層は、3a, c 同様に西傾斜の逆断層と推定される。

3c：一関市落合では、中位・下位段丘面に不明瞭であるが、傾斜変換が認められることから、東落ちの変位地形と認定した。下位段丘面には、2 条の断層線が認められた。

その他の推定活断層としては、奥州市衣川餅転付近の断層が記載されている。

4. 奥州市衣川餅転^{ころもがわもちころばし}付近の断層

- ・走向 : 南北
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

奥州市 衣川餅^{ころもがわもちころばし} 転 付近に位置する、南北方向に延びる長さ約 2 km の推定活断層である。

(2) 判断根拠

山地・丘陵部に南北走向の高度不連続が認められたが、新期の地形（地すべり地形や下位段丘面）に変位は認められなかったため、推定活断層とした。

※本図内の地震断層について

本図内には、平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の際の地震断層が記載されているが、そのうちの一部区間では、活断層を認定するにあたって必要な地形的特徴（変位基準となる段丘面の変位など）が見られないため、活断層の認定をしなかった。

（東京都立大学助教 石村 大輔）

引用文献

今泉俊文・後藤秀昭・宮内崇裕・八木浩司・渡辺満久 2002. 『1:25,000都市圏活断層図「北上」』国土地理院。

地震調査研究推進本部地震調査委員会 2001. 北上低地西縁断層帯の評価。
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/13_kitakami-teichi.pdf（最終閲覧日：2024年1月18日）

国土地理院 2009. 『平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震 1:25,000詳細活断層図（活断層・地形分類及び地形の変状）』国土地理院。

鈴木康弘・渡辺満久・中田 高・小岩直人・杉戸信彦・熊原康博・廣内大助・澤 祥・中村優太・丸島直史・島崎邦彦 2008. 2008年岩手・宮城内陸地震に関わる活断層とその意義 ――関市厳美町付近の調査速報―。活断層研究 29: 25–34.

堤 浩之・杉戸信彦・越谷 信・石山達也・今泉俊文・丸島直史・廣内大助 2010. 岩手県奥州市・一関市に出現した2008年岩手・宮城内陸地震の地震断層。地学雑誌 119: 826–840.

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/10,000	R436, R1782
米軍（モノクロ）	1/40,000	M621
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	MTO682X, MTO683X
国土地理院（カラー）	1/10,000	CTO7610, CTO7613, CTO7616
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山-180, 山-243

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院・岩手県が管理する航空レーザ測量データから 1mDEM を作成して使用。

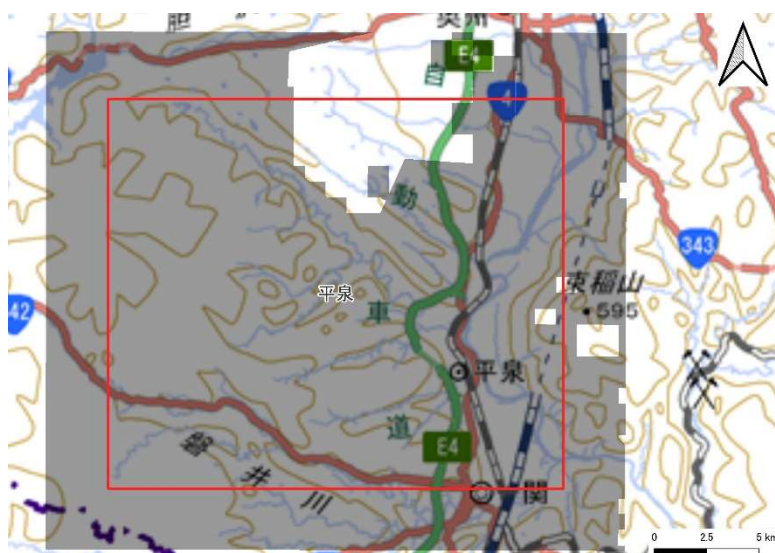


図1 航空レーザ測量データ使用範囲（グレー色塗りつぶし部：データ使用部，赤枠：図郭）
塗りつぶし部以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEMないし10mDEM）」を使用した。

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会・第1回全体部会（クロスチェック）	令和5年8月23日(水)
	ビジョンセンター東京八重洲
地域部会（クロスチェック）	令和5年11月23日(木)
	イオンコンパス東京八重洲会議室
第2回委員会・第2回全体部会（クロスチェック）	令和5年12月22日(金)
	ビジョンセンター東京八重洲

b. 北上低地西縁断層帯とその周辺「平泉」(令和5年度)

図 名	氏 名	所 属
平泉	○ 石村 大輔	東京都立大学助教
	楮原 京子	山口大学准教授
	熊木 洋太	専修大学教授
	田力 正好	地震予知総合研究振興会主任研究員

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順。

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
電話：029 (864) 1111 (代表)

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

石村大輔・楮原京子・熊木洋太・田力正好 (2024) : 1:25,000 活断層図「平泉」. 国土地理院.

b. 解説書を引用する場合

石村大輔 (2024) : 1:25,000 活断層図 北上低地西縁断層帯とその周辺「平泉」解説書. 国土地理院, 8p.

【付図（断層索引図）】

